

「ecoプロジェクト」が「2022年度グッドデザイン賞」を受賞

auじぶん銀行株式会社（本社:東京都中央区、代表取締役社長:石月 貴史、以下 auじぶん銀行）がお客さまとともに環境負荷軽減に取り組む「ecoプロジェクト」（以下 本プロジェクト）について、このたび2022年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞したことをお知らせします。

GOOD DESIGN AWARD 2022



本プロジェクトは、「お客さまに商品やサービスをご利用いただくことが、ともに『未来を創る』取り組みに繋がれたら」との思いからスタートした、auじぶん銀行が環境負荷軽減に取り組んでいく施策の総称です。社内における備品のエコ製品への切り替えやペットボトルキャップの回収などの取り組みのほか、①円定期預金、②住宅ローン、③「じぶん銀行スマホデビット」の3つの商品において、お客さまが環境負荷軽減に繋がる選択や手続きをすることにより、auじぶん銀行がお客さまに代わって環境保全団体に寄付を行っています。

本プロジェクトでは、より多くのお客さまに参加いただけるよう、さまざまな取り引きが寄付に繋がる仕組みとし、さらに寄付金の使い道や、参加人数や寄付金額を視覚化することで共創感を醸成するデザインに取り組んでいます。

2022年4月に開始した本プロジェクトは、参加いただいたお客さまが既に3万人を超えるなど、多くのお客さまに賛同いただいています。

今後もお客さまとのコミュニケーションを大切に、「わたしたちの未来を創る」ために、お客さまとともに環境負荷軽減に取り組んでいきます。

詳細は下記 auじぶん銀行のウェブサイトをご参照ください。

https://www.jibunbank.co.jp/landing/eco_project/

■環境負荷軽減に繋がる3つのプログラム

① ブルー円定期預金・グリーン円定期預金

お客さまからお預け入れいただいた金額の0.01%相当額を、auじぶん銀行が「珊瑚保全団体」または「森林保全団体」へ寄付をする円定期預金です。提供開始から約5カ月で「ブルー円定期預金」と「グリーン円定期預金」の合計預金残高が100億円を突破しました。



② 住宅ローン

住宅ローンの本審査書類提出時に、書類のアップロードによる提出を選択いただくことで、auじぶん銀行が39（サンキュー）円を「森林保全団体」へ寄付します。

<住宅ローン書類アップロードについて>

<https://www.jibunbank.co.jp/products/homeloan/formalities/documents/#flg-m02>

③ じぶん銀行スマホデビット

カードレスの「じぶん銀行スマホデビット」を発行いただくことで、auじぶん銀行が1件につき39（サンキュー）円を「珊瑚保全団体」へ寄付します。

<じぶん銀行スマホデビットについて>

<https://www.jibunbank.co.jp/service/debit/#flg-about>

※寄付について、お客さまのご負担はありません。

■審査員コメント

環境保全など社会課題の解決に向けた参加意識は年々高まり、その機会を提供する取り組みが様々な形で広がっている。「ecoプロジェクト」がアプリの活用や銀行の商品サービスを通して、利用した顧客に環境保全団体への意識を高めたり寄付を提供することは、それ自体での新規性はないが、スマートフォンは今や生活の中で最も身近な存在であること、キャリアが抱える広い客層、特に環境意識への関心が高い若い世代に対して底辺の広い影響力を持つことから、キャリアが関連する金融企業が活動を起こしたことに一定の価値がある。現在の寄付の対象は、森林保全の植林と珊瑚の移植活動の2件で、そこから提供される情報はやや少ない感があるが、今後は活動に関わる人や場所の繋がりを多面的にするなど、提供する情報の粒度や角度を増やし、取り組みが持つ価値の醸成が進む事を期待している。

※「キャリア」は通信事業者のことを指します。

■グッドデザイン賞とは

1957年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されています。受賞のシンボルである「Gマーク」は優れたデザインの象徴として広く親しまれています。

<http://www.gmark.org/>



au フィナンシャルグループの au じぶん銀行は、『じぶんのいる場所が、行く場所が、ぜんぶ銀行になる。そういうスマホの自由さ、便利さを銀行にも。』という思いを込めて「銀行を連れて、生きていこう。」というブランドメッセージを掲げるとともに、社会の持続的な成長に貢献する会社を目指し、社会貢献活動にも取り組んでいきます。

以上